

(別添資料1)

事業所名

クレシタわたりだ

支援プログラム（参考様式）

作成日

2026 年

7 月

1 日

法人（事業所）理念		その人らしい人生を歩めるよう、自身で選択していける暮らしを実現する。									
支援方針		安心できる環境の中で「できた」「うまくいった」という経験を積み重ね、自己肯定感を高めていく。 一人一人の発達段階を見極め、その段階に応じて必要な療育を組み立てていく。 多職種で連携し、多角的な視点から子どもへの支援を行っていく。									
営業時間			9 時		0 分から		18 時		0 分まで	送迎実施の有無	ありなし
		支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	・保護者からの聞き取りや検温、視診を通してお子さんの健康状態を把握する。 ・着脱や排泄などの基本的な生活習慣を身につけていけるよう、保護者と連携しながら発達段階に合わせて支援していく。 ・視覚的支援を取り入れつつ、分かりやすく安心してできる環境の提供を行っていく。									
	運動・感覚	・様々な粗大運動や微細運動を通してボディイメージを高めていく。 ・個々の感覚の特性に配慮した支援を行いつつ、得意な感覚を伸ばし、苦手な感覚は丁寧にサポートしていく。									
	認知・行動	・一人一人の発達段階に合わせた個別課題を設定していくことで、認知面だけではなく、運動面や言語面、人間関係も含めた全体発達を促していく。 ・静と動の活動のバランスを取っていくことで、そのお子さんにとってより活動に参加しやすい流れを作っていく。									
	言語コミュニケーション	・言語コミュニケーションの土台となる、模倣する力や概念、理解力などを丁寧に伸ばしていく。 ・言葉だけではなく、実物やジェスチャー、絵カードなども使用して、「自分の要求や気持ちなどが伝わった」「言われたことが分かった」「伝えることや分かることが嬉しい」という経験を積み重ねていけるよう支援していく。 ・言葉でコミュニケーションをする場合には、適切な表現内容で、相手との言葉のやり取りを繰り返していけるように支援していく。									
	人間関係社会性	・周りの大人や友達と関わる楽しさや安心感を実感できるように、ねらいを持った遊びを設定していく。 ・「相手に応じる」「相手に合わせる」という経験を通して、集団生活に適応しやすくなるための力を身につけていけるよう支援していく。 ・役割取得、当番活動、役割交代などの活動を通して、相手のために行動する、違う立場から物事を見るという経験を積み重ねていけるようにする。									
家族支援		・家庭や学校、幼稚園、保育園での困りごとについて、保護者からの相談に応じていく。 ・利用できる福祉制度について、必要に応じて情報提供を行っていく。				移行支援		幼稚園・保育園や就学先の小学校などと訪問やカンファレンスなどを通して連携し、園生活や学校生活をよりスムーズに、楽しく移行していくことができるように支援していく。			
地域支援・地域連携		療育センターや地域の他の児童発達支援事業所と連携し、併用しているお子さんの支援を充実させていく。 近隣の幼稚園・保育園と連携して研修を実施したり、園に在籍しているお子さんについてのカンファレンスなどを行っていく。				職員の質の向上		新入職員研修を実施。 振り返り時間を毎日設け、保育士・児童指導員だけではなく、相談支援専門員や公認心理師、言語聴覚士などからも意見を聞いていく。			
主な行事等		季節の行事 公共の施設への外出・保護者交流会(年2回) 避難訓練(年2回)									